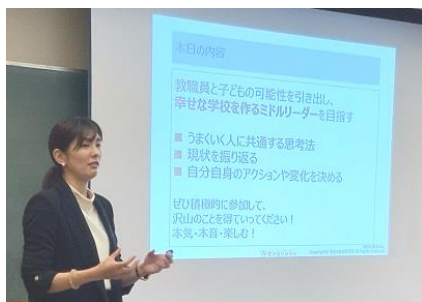


実践の中核、「ミドルリーダー」の先生を研修で応援！

松本市が行う独自の教職員研修の中で大切にしているものの一つに、「学校づくりの実践の中核となるミドルリーダーの先生方を応援する研修」があります。「組織として動く視点」「ビジョンの共有」といった、学校運営に参画するミドルとしての視野を広げたり、同じ立場で取組む先生たちと対話・協議したりすることを通して、学校づくりに関わる熱意と見通しを高めていただくこと、そして、それを学校での実践につなげていただくことを願っているところです。今年実施したミドルリーダー向けの研修は11講座。その中で今回は12月に行われた2講座についてご紹介します。

『『幸せな学校を作るミドルリーダー』をめざす』 WS型ミドルリーダー研修Ⅳ

ワークショップ型ミドルリーダー研修の4回目は、「(株) 先生の幸せ研究所」代表の澤田真由美先生を講師として迎えました。澤田先生は、公立小学校の先生を約10年間務められたのち、「身も心も幸せな教育者を増やしたい！」という強い願いをもち、会社を設立されました。当時は、「働き方改革」という言葉も今ほど浸透していない時期。まったく前例のない分野に、「絶対に必要なこと！」という直観を信じて飛び込んだそうです。現在、国をはじめ多くの自治体、学校・園へのコンサルティングや講演等、多くのシーンで活躍されています。松本市でも経産省の「未来の教室」事業を通じ、令和4年度の1年間、波田小の実践をサポートいただきました。



講座の冒頭、澤田先生は「今日は、自分を大切にしていいるんだ、という考え方を持ち帰って下さい。いいリーダーの条件は『自分が満たされていること』です。自分が満たされているからこそ、周りの人を幸せにできるんです。」と述べられました。

その上で、学校に「関係の質が高まる→思考の質が高まる→行動の質が高まる→結果の質が高まる」というポジティブなループを創るための「自分にも周りにも優しくなれる”天才を超える”思考法 クリティカルシンキング」について紹介いただきました。

以降、演習や協議を交えながら「自分も周りも幸せにする様々な考え方」を、実感させていただきました。

- ・先生たちが、自分らしく生き生きはたらき、人生を楽しむことが、子どもたちの輝きにつながる。
- ・そのためには、様々な「とらわれ」を捨て、柔らかな目で物事を見直すこと。
- ・自分の「とらわれ」からはなれクリティカルに見ることは、自分も周りも幸せにすること。
- ・「できる！」と信じるのが「軽やかさ」を生むこと。…

1時間半という短い時間でしたが、多くのキーワードが心に刻まれました。澤田先生の発せられるオーラに触れ、参加された先生方が大きな元気と刺激をいただいた研修になりました。

【参加者の感想から】

- ◆短い時間でしたが、とても面白く勉強させていただきました。…こういう研修をたくさん受けてみたいです。講師の先生に本当に感謝です。私の学校にぜひ来てほしいです。
- ◆「バイアスの自覚」＝自分の価値観を手放す、持ちづける、アップデートすることに積極的になったり、自分を相手に置き換えて考えたりして、現状に何が必要か考えていくことを実践したいと思います。「ミドルリーダーの振る舞いが職員室をいい方向へ変える」という言葉を胸に、先輩の先生方のような存在になれるよう努力していきたいと思いました。

「来年度の研究推進に向けて見通しをもつ」

第3回研究主任研修会

今年度最後となる研究主任研修会。今回は、各校で来年度の体制づくりが進んでいるこの時期に「今年度の成果と課題を振り返る」「来年度の研究推進に向けて3学期に取り組む見通しをもつ」を二本柱に据え、グループ協議で参加者が語り合う時間を大切にしました。

「今年度の成果と課題の振り返り」では、最初に丸ノ内中学校の探究コーディネーターK先生が「校内に探究の学びが広がるように、ミドルリーダーとしてこう動いた」と題し、実践発表を行いました。



- ・「総合的な学習の時間が、行事の準備になりがち」という反省に立ち、「行事総合からの脱却・生徒に委ねる」を柱に、令和4年度から総合的な学習の時間の実践をゆるやかにスタートした。
- ・教頭・教務主任・研究主任・探究Coによる「**学びの戦略会議**」を定期的開催し、研修計画等を検討し「**育成する資質・能力に関する職員の共通理解**」を図った。
- ・職員意識調査の結果から「『**探究的な学習**』の不安や喜びが語り合える**職員集団づくり**」を大切にしたい。
- ・「問う・つなぐ・伝える」の「3T」を探究の学びの合言葉として決めだし、共有した。
- ・「**まずは職員がわくわく楽しむ**」ことを重点におき校内研修を実施した。 …

このように、生徒も教師もわくわくしながら探究の学びを重ねていった様子を報告いただきました。

実践発表後のグループ協議Ⅰでは、少人数のグループで、各校の今年度の振り返りについて語り合いました。「単元内自由進度学習をやる際の留意点」「職員を巻き込んで研修を進める手立て」「探究の学びの進め方」など研究主任として日頃悩んだり実践したりしていることが次々に出され、話題が絶えることはありません。中には、「研究を進めようとする『働き方改革に反する』と言われ、困っている」という深刻な悩みを寄せて「子どもが主語にならない働き方改革はないのでは」と励ましを受け、「元気をもらいました」と笑顔になる方もいました。互いの悩みや困っていることを率直に出し合い、「子どもが主人公」の授業づくりに向け実践をもとに熱心に語り合う研究主任の皆さんでした。



後半の「来年度の研究推進に向けて」では、中信教育事務所の池田敦夫指導主事より「**学校づくりの中核であるミドルリーダーとしての研究主任**」と題し講演をいただきました。「**目指す方向性をつかみ、管理職と対話する**」「**具体的な取組みを全職員で考える**」「**次年度の方向性に向けて全職員で行っていくことを一つ提案する**」など、研究主任として3学期に取り組む内容について具体例を交えお話いただきました。

講演後のグループ協議Ⅱでは、それぞれが持ち寄った「**グランドデザイン**」をもとに、研究主任として3学期に取り組みたいことについて語り合いました。アイデアの交流を通して、自分の学校でもこんな取組みができそうだと視点を広げていく機会になりました。研究主任会も3回目となり、お互い気心が知れ、期待と希望をもちながら来年度の方向を語り合う会となりました。

【参加者の感想から】

- ◆「行事総合からの脱却」という目標のために、丸ノ内中のK先生が研究主任として様々な手立てを考え、実行されてきた経緯をお聞きし、学校全体を変えていこうという大きな熱量と実行力のすごさを感じました。また、職員や生徒の気持ちをくみ取りながら研究を進められており、みんなで研究し、変えていこうという雰囲気を作り出していくことが大切なのだと思います。
- ◆丸ノ内中の「**学びの戦略会議**」が印象的でした。内容もなるほどと思うこともありましたが、教師同士で共通認識のもと、進めているのが大切だと思いました。とても参考になりました。
- ◆「研究＝1番の業務削減対象」という雰囲気が強い本校。自分だけが熱くなっている他の先生方との温度差が開く一方で疲れきっていたのですが、グループの先生方のお話をお聞きし、もう一度方向性を変えてやってみようという前向きな気持ちになりました。
- ◆自由進度等悩んでいることや知りたかったことを研究主任の先生方と情報共有できたことが有難かったです。研究主任会は本当に心の支えになっています。多くの先生方の実践を学んでいきたいです。